

福祉サービス第三者評価 評価結果

鳩の森愛の詩瀬谷保育園

横浜市瀬谷区二ツ橋町 83 3

運営主体：社会福祉法人 はとの会

実施概要	1 ページ
総合評価（評価結果についての講評）	2～3 ページ
評価領域ごとの特記事項	4 ページ
分類別評価結果	5～14 ページ
利用者家族アンケート分析・集計結果	15～21 ページ
利用者本人調査分析	22～23 ページ
事業者意見	24～26 ページ

2007 年 2 月 2 日公表

評価機関：特定非営利活動法人 市民セクターよこはま

実施概要

事業所名	鳩の森愛の詩瀬谷保育園	
報告書作成日	2007年1月29日	評価に要した期間 約5ヶ月間
評価機関	特定非営利活動法人 市民セクターよこはま	

評価方法

<p>1、自己評価</p> <p>実施期間:2006年9月22日～11月10日</p>	<p>園長・主任保育士・各クラスリーダーが集まり、他園の事例から勉強会を行った。</p> <p>職員会議で趣旨等を説明した後、常勤・非常勤全ての職員各個人が自己評価票を持ち帰り、記入した。</p> <p>各個人が記入したものを持ち寄り、園長・主任保育士・各クラスリーダーが集まり、意見交換しながら1項目ずつの確認を行った。</p> <p>さらに、常勤・非常勤全ての職員を集めての職員会議を開き、1項目ずつについて事例をあげて確認・合意をし、園長・主任保育士がまとめた。</p>
<p>2、利用者家族アンケート調査</p> <p>実施期間:2006年10月10日～10月31日</p>	<p>全園児の保護者(71家族)に対して事業者側から手渡し。</p> <p>各保護者より、同封の返送用封筒にて評価機関宛に匿名で返送。</p>
<p>3、訪問実地調査</p> <p>実施日:第1日 06年12月7日 第2日 06年12月11日</p>	<p>[第1日]</p> <p>午前:各クラスにて観察調査 昼食:各クラスにて観察調査(園児と一緒に給食をいただく) 午後:書類調査及び園長・保育主任に対する事業者面接調査</p> <p>[第2日]</p> <p>午前:各クラスにて観察調査 昼食:各クラスにて観察調査(園児と一緒に給食をいただく) 午後:栄養士、保育士6名(各クラスリーダー5、非常勤1)と面接調査。その後、園長・保育主任と事業者面接調査を行い、意見交換後、終了。</p>
<p>4、利用者本人調査</p> <p>実施日:第1日 06年12月7日 第2日 06年12月11日</p>	<p>観察調査は、調査員が各クラスに分かれて実施。園外への散歩にも同行した。</p> <p>聞き取り調査は、上記観察調査時及び昼食同席時に、適宜実施した。</p>

総合評価（評価結果についての講評）

【施設の概要】

鳩の森愛の詩瀬谷保育園は、相鉄線三ツ境駅から徒歩約10分の住宅地にあり、区役所、消防署、警察署、地域ケアプラザに隣接しています。近隣には公園が多数あります。定員は66名(0歳児保育なし)です。開園時間は7時から20時までで、一時保育、交流保育、園庭開放、親子通園、地域子育て支援等の取り組みを行っています。

1974年(昭和49年)4月に横浜市立瀬谷保育園として開設され、2005年(平成17年)4月、民間移管により、社会福祉法人はとの会が運営することとなり、現在の名称に変更されました。なお、はとの会は、相鉄線弥生台駅近辺において、他に鳩の森愛の詩保育園(はと)と鳩の森愛の詩あすなろ保育園(あすなろ)の2つの保育園を運営しています。無認可保育所時代を含めると、約21年の実績となります。

保育の理念は、「共育て共育ち」として、“子どもたちをまん中に、保育者と父母が手をつなぎ合い、支え合い、成長し合うこと”を掲げています。この理念のもと、保育目標として、お互いを認め合う仲間になろう、しなやかな体をつくろう、感性をゆたかにしよう、共育て共育ちの喜びを大きくしていこう、の4つを掲げています。

高く評価できる点

1、子どものやる気を引き出す保育を実践しています。

「自分たちの生活を自分たちで作り出す子ども集団を目指す」という目標のもと、保育士は、遊び等の前に「何をするか」「散歩の行き先はどこにするか」等、子どもたちの意見を聞き、子どもたちの発想をできるだけ取り入れています。意見を受け入れてもらうことで、子どもたち一人ひとりが“やる気”を十分に持ち、遊びの中にさまざまな工夫をして楽しんでいます。また、3、4、5歳児が一緒に行う“タッチリレー”では、5歳児がリーダーシップを発揮し年少児を励ます等、集団としての過ごし方も自然に身につけています。

子どもたちが遊びを楽しんでいる背景には、保育士たちのさまざまな工夫があることが見逃せません。絵本の中で出てくるものと同じような場面を公園で体験できるように準備しておいたり、意外な発見ができるように隠しものをしておいたり等、子どもたちの興味を誘う仕組みをあらかじめ作っています。さらに、これらの仕組みに遭遇できるよう、子どもたちをさりげなく誘導する巧みさがあります。また、月1回のお楽しみ会では、職員による“出し物”があります。和太鼓の演奏等が行われ、子どもたちが“自分たちもやってみたい”と思うきっかけになっています。保育士は、遊びの工夫や“出し物”について話し合い、“次はこうしてみよう”と更なるアイデアを出し合っています。

2、職員の研修が充実しています。

年間研修計画が策定されており、同法人が運営する他の2保育園(はと、あすなろ)の職員も含めた合同研修が定期的に行われている他、外部の研修会等へも積極的に参加しています。

研修後は、研修報告書や職員会議により職員同士で情報を共有する他、研修等を受けた感想や、日常の保育にどう活かすか等について各職員の報告をまとめ、報告書として父母へ配布しています。

一見、保育とは関係が薄いと思われる研修もありますが、合唱、荒馬踊り等の研修に参加した職員は、子どもたちにその技術と楽しさを伝え、子どもたちの感性を豊かにする保育のために活かしています。毎朝、3、4、5歳児は職員とともに、数多くの歌を大きくきれいな声で楽しく歌っており、研修の成果があがっていることが感じられます。

法人3園合同研修としての無言館学習の旅や沖縄平和学習の旅、外部研修のぞう列車国際交流コンサートへ参加した職員は、平和の大切さを自らが実感し、子どもたちにも歌やお話しを通じてそれを伝えていきます。

3、食への関心を大切にしています。

主食は、麦ごはん（胚芽米・麦）、五穀ごはん（胚芽米・五穀）を中心とし、有機栽培等による米や野菜を使用する等、子どもたちの体づくりや健康に配慮した献立となっています。

子どもたちは、有機栽培の野菜を作る現場を見学した保育士から、その話を聞いたり、園の畑やプランターで、きゅうり・なす・トマト・白菜・ほうれん草等を自分たちで栽培したりすることで、作物ができる過程を学んでいます。また5歳児は、月1回のクッキング保育の日には、パン・餃子・おはぎ・ピザ・デコレーションケーキ・うどん等を自分たちで作っています。

配膳については、保育士が保育室内でご飯をよそう等の準備をしますが、子どもたちは年齢に応じて手伝っています。5歳児は当番がご飯とおかずの盛り付けを行う他、米を砥ぎ、炊飯器で炊くことも行っています。また、木製のお椀・皿・箸や陶器の食器を使用し、本物を大切に使うことを子どもたちは体験しています。これらの経験を通じて、子どもたちが食への関心を持つようにしています。

独自に取り組んでいる点

1、保育環境の整備に力を入れています。

民間移管後、別棟を建て事務室とし、従来の事務室を保育室にして保育スペースを広げたり、トイレやベランダの改修、不要物の撤去を行う等、保育環境の整備に力を入れています。家族アンケートにも「建物の老朽化や地震時への不安は、市立保育園の時から課題であり、やむを得ないが、民間移管後は、きめ細かく様々な改善をしてくれている」「危険箇所等を指摘すると、すぐ対応してくれる」等の声があります。

2、父母との良好な関係が築かれています。

民間移管にあたり、理念や保育目標等を説明し、それに対する父母の意見を、三者協議会(*)に出席する父母の会代表を通じて集約しました。移管後も、新たな方法を取り入れる場合や従来のやり方を変更する場合には、その都度父母の会代表を通じて説明・父母の意見集約を行い、賛同を得た上で実行に移しています。このような取り組みの結果、当初、毎月開催していた三者協議会は、半年に1回程度で済むようになる等、父母との良好な関係が築かれています。

* 三者協議会……父母の会、横浜市、法人の三者で構成

改善や工夫が望まれる点

1、地域との連携強化

園は民間移管後2年目と日が浅いにもかかわらず、すでに一時保育・交流保育・園庭開放・親子通園・地域子育て支援（あそぼう会）・育児相談等を実施しています。しかし、地域との交流や連携が十分取られているとは言えません。

法人は他の2保育園において、約20年の地域との交流、連携の実績があるので、これらの豊富な経験を活かして、園としても、より幅広い地域子育て支援活動が可能だと考えられます。今後、地域の中の保育園としての取り組みを検討することが望まれます。

2、不審者侵入防止・防犯対策

民間移管後、出入り門近くに事務所を新設したことで監視の目が行き届き、不審者侵入防止に効果があがっています。しかし、家族アンケートには、未だ不十分との声が多数あります。どんな時、どんな場面で不安とを感じるのか、どのようにすべきか等について、父母の会と話し合い、計画されている園舎の増改築の際には、父母も納得する不審者侵入防止・防犯対策を取り入れることが望まれます。

評価領域ごとの特記事項

かながわ福祉サービス第三者評価推進機構が定めた「評価領域」に則って、記載しています。

1、人権への配慮

- ◇ 保育の理念は、「共育て共育ち」として“子どもたちをまん中に、保育者と父母が手をつなぎ合い、支え合い、成長し合うこと”を掲げ、子どもを尊重したものとなっています。
- ◇ 保育士は、虐待の定義等について理解しています。虐待の早期発見についてのマニュアルがあり、毎日視診を行っています。
- ◇ 年度初めの職員会議で、「子どもの権利条約」を参考に、人権についての学習を行っています。

2、利用者の意思・可能性を尊重した自立生活支援

- ◇ 保育目標は、お互いを認め合う仲間となろう、しなやかな体をつくろう、感性を豊かにしよう、共育て共育ちの喜びを大きくしていこう、の4つを掲げ、子どもの主体性を大切にした年間指導計画を年齢ごとに立てています。
子どもの発想を受け止め、子どものやる気を引き出す保育を実践しています。
- ◇ 合唱、和太鼓、リズム体操、造形指導等、子どもの感性を豊かにするプログラムを取り入れています。
- ◇ 食への関心を大切にしています。

3、サービスマネジメントシステムの確立

- ◇ 健康管理・感染症対策・衛生管理・安全管理について、それぞれマニュアルが整備されています。
- ◇ 苦情受付担当者、苦情解決責任者が定められ、「提案箱（意見箱）」が設置されています。
- ◇ 苦情・要望があった場合には、その対応結果を文書で申出者に連絡しています。
- ◇ 第三者委員が3名選任されており、年度初めに全保護者に周知されています。
- ◇ 個人情報保護について、職員は研修で学んでいますが、園として「個人情報保護に関する規程」を策定していません。
- ◇ 職員会議、カリキュラム会議等で保育内容の見直しを行う他、同法人が運営する保育園合同の3園園長会議、3園保育主任会議で運営上の課題の設定及び見直しを行っています。

4、地域との交流・連携

- ◇ 一時保育、交流保育、園庭開放、親子通園、地域子育て支援（あそぼう会）等の取り組みを行っています。親子通園は、地域の親子や障がいのある子どもとその父母が保育園体験をする独自の取り組みです。
- ◇ 育児相談を、随時受け付けています。
- ◇ 民間移管により法人の運営となってから日が浅いため、地域の行事への参加や地元町内会等との連携は不十分であり、これからの検討課題です。

5、運営上の透明性の確保と継続性

- ◇ 園のパンフレットや法人のホームページで、保育の理念や保育目標を伝える他、さまざまな情報を提供しています。
- ◇ 事業者として守るべき法・規範・倫理等を、年度初めの法人全体職員会議で説明し、周知しています。
- ◇ 法人として5年の中期計画を作成しています。

6、職員の資質向上の促進

- ◇ 自己評価票による目標設定、園内外での研修、OJT等による人材育成を行なっています。
- ◇ 理事長・園長が年2回職員と面接を行い、各自の目標設定とその結果を話し合っています。
- ◇ 同法人が運営する他の2保育園の職員も含めた合同研修が定期的に行われている他、外部の研修会等へも積極的に参加しています。
- ◇ 研修報告書や職員会議により、職員同士で研修内容について情報を共有する他、研修等を受けた感想や、研修の成果を日常の保育にどう活かすか等について、各職員の報告をまとめ、園だより等で父母へ伝えていきます。

当評価機関では、「障害」を「障がい」と表記します。

分類別評価結果

横浜市評価基準を使用しています。評価基準の詳細については、横浜市健康福祉局「福祉サービス第三者評価」のホームページ <http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/hyouka/index.html> を参照してください。



「ひょう太」の数の意味は以下の通りです。







3つ：高い水準にある 2つ：一定の水準にある 1つ：改善すべき点がある



評価分類の結果は、各分類を構成する1～6つの項目の評価結果で決まります。「ひょう太」が1つしかつかない項目が1つでもあると、その項目の属する評価分類の結果は「ひょう太」1つとなります。



評価領域 利用者（子ども）本人の尊重




評価分類	評価の理由(コメント)
<p>- 1 保育方針の共通理解と保育計画等の作成</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育の理念は、「共育て共育ち」として、“子どもたちをまん中に、保育者と父母が手をつなぎ合い、支え合い、成長し合うこと”を掲げ、子どもを尊重したものとなっています。 ・ 年度初めに、法人の全職員を集め、理事長が理念・基本方針の説明を行い、周知徹底を図っています。 ・ 保育目標は、お互いを認め合う仲間になろう、しなやかな体をつくろう、感性を豊かにしよう、共育て共育ちの喜びを大きくしていこう、の4つを掲げています。 ・ 保育計画は、保育方針に沿って立てられ、父母の就労状況などを考慮しています。その内容は、年度初めのクラス懇談会で伝える他、4月の園だよりにも載せています。 ・ 保育計画に基づき、年度初めに、年齢ごとに年間指導計画を立てています。大幅な見直しや改訂が必要かどうかの判断は、前半期が過ぎた段階で行っています。 ・ 保育士は、穏やかな話し方を心がけ、子どもたちが意見を出しやすい雰囲気をつくることで、得られた情報を指導計画に反映するようにしています。
<p>- 2 子どもの発達や状況に応じた適切な援助の実施</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 入園当日に、子どもの生育歴や家庭の状況等の書類を受取ると共に、父母との面接および子どもの観察を行い、子どもの発達状況や課題を把握しています。 ・ 導入保育（ならし保育）が必要な場合は、新入園児の家庭と個別に話し合い、日程等を決めています。 ・ 導入保育中は、園での子どもの様子を写真に撮り、連絡ノートに貼って、父母に伝えています。 ・ 保育計画に基づき、年齢ごとに、年間指導計画、月間指導計画、週案、日案ときめ細かく計画を立てています。 ・ 週案を、父母がいつでも見られる場所に掲示し、1週間の予定が分かるようにしています。

<p>- 3 快適な施設環境の確保</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 民間移管後、別棟を建て事務室とし、従来の事務室を保育室にして保育スペースを広げたり、トイレやベランダの改修、不要物の撤去を行う等、保育環境の整備に努めています。 ・ 屋内・外を清潔に保つようにするため、清掃チェックリストを活用しています。 ・ 部屋の一部を畳敷きにししたり、可動式の棚・仕切り板等を用いたりして、小集団保育に適した空間を確保しています。 ・ 廊下の一角に本棚とベンチが設置され、子どもたちが自由に絵本等を取り出せるようになっており、異年齢児間の交流の場となっています。
<p>- 4 一人ひとりの子どもに個別に対応する努力</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1歳児には、個別指導計画を作成しています。 ・ 一人ひとりの子どもの発達状況を、期ごとに、個人別のファイルに記録しています。 ・ 一人ひとりの子どもの園生活の様子を写真に撮り、毎月数枚ずつを個人別アルバムに貼り、アルバムは進級時・卒園時に本人へ渡しています。 ・ 年度末に、次年度担任に向けて申し送り事項をまとめ、伝達しています。
<p>- 5 保育上、特に配慮を要する子どもへの取り組み</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 特に配慮の必要な子どもについては、療育センター、区役所福祉保健センター、児童相談所などと連携を取りながら、受け入れています。 ・ 臨床心理士が月3回来園し、特に配慮の必要な子どもへの対応について保育士に助言し、必要に応じて父母との話し合いにも同席しています。 ・ 障がいのある子どもを受け入れています。日々の様子は、週1回のクラスリーダー会議で話し合わせ、情報は職員間で共有されています。 ・ アレルギー疾患のある子どもの献立は、月1回父母と担任、栄養士が面談して確認しています。代替食・除去食についてはほとんど見た目が変わらないものを用意し、お盆を別にして間違いのないように配慮しています。 ・ 現在は外国籍や帰国子女はいませんが、文化、生活のあらゆる場面で違いがある事を認め、受け入れる姿勢があります。 ・ オリンピックやワールドカップなどの機会に、子どもたちがさまざまな国について興味・関心を広げるように工夫しています。
<p>- 6 苦情解決体制</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第三者委員が3名選任されており、年度の初めに父母に周知されています。 ・ 掲示板には、苦情受付者・苦情解決責任者の名前が掲示され、廊下には「提案箱（意見箱）」が設置されています。 ・ 保育士は、朝夕の送り迎え時に父母に声掛けをし、要望が出やすいようにしています。 ・ 父母からの要望・苦情にはすぐ対応し、その経緯を文書で申出者に知らせています。 ・ 権利擁護機関、子育て支援窓口、苦情解決のための他機関等について、パンフレットにより父母に紹介しています。

評価領域 サービスの実施内容



評価分類	評価の理由(コメント)
<p>- 1 保育内容[遊び]</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 遊具は、ままごと・絵本・ブロック等に分けて置かれ、取り出しやすく、しまいやすく整理されています。また遊具は、保育士やボランティアの手作りが多く、子どもの成長や季節に合わせて入れ替えています。 ・ 園庭は土です。子どもたちは砂場遊びや相撲、鬼ごっこなどを楽しみ、走りまわって遊んでいます。 ・ 2ヶ月に1度、「エンジョイデイ」という取り組みがあります。その日は、時間割なしで、お腹がすくまで遊び込める日です。子どもたちは、お腹がすくと自由に部屋に戻り、昼食をとります。 ・ 散歩は毎日のように実施しています。園の近くに様々な公園があり、子どもたちは公園に名前をつけて親しみを感じており、公園に行くのを楽しみにしています。途中、地域の人と親しく挨拶を交わしています。 ・ 散歩に慣れてくると、おにぎりを持って長い散歩にも出かけています。春は、担任がおにぎりを1個ずつ作りますが、秋になると、子どもたちが自分で1個のおにぎりを作って長い散歩に出かけています。昼食は園に戻ってからとります。 ・ 毎朝、3、4、5歳児は、時には1、2歳児も一緒になって数多くの歌を歌います。伴奏は、ピアノの先生が朝の時間に来て弾いてくれます。「ぞうれっしゃよはしれ」「ぶどう組(年長組)の歌」など長くて難しい歌にも取り組んでおり、4、5歳児は、堂々と高らかに自信を持って歌っています。3歳児は4、5歳児の歌を聴いて一緒に歌うことを楽しんでいます。 ・ 週に1度、リズム遊びの日があります。4、5歳児は年度始めから、3歳児は夏季からリズム遊びを楽しみます。 ・ 子どもたちは、月に1回、専門家による絵画や造形の指導を受けています。 ・ 5歳児は、当番で年少のクラスへ行き、お昼寝をしている年少さんを起こしてあげたり、着替えを手伝ったり、おやつと一緒に食べたりしています。年少の子どもたちは、5歳児のようなお手伝いができる年長さんになりたいと感じています。 ・ 朝の会や公園での遊びのときにも異年齢児の交流をしています。5歳児はそこでリーダーシップを発揮しています。
<p>- 1 保育内容[生活]</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 給食の配膳は、基本的には保育士が行いますが、子どもたちは年齢に応じてお手伝いが増えます。5歳児の当番は、米をとぎ、炊飯器でご飯を炊き、給食の時間にはご飯とおかずの盛り付けを行います。食前のあいさつから片付けまで、自信を持って当番の仕事をしています。 ・ 食材は、有機栽培等の米や野菜を使用する等、食の安全性に気を付けています。また、木製や陶器の食器を使用し、本物を大切に使うことを子どもたちは体験しています。 ・ 3、4、5歳児は、毎月1回実施のバイキング給食を楽しんでいます。

	<p>父母も参加できるおたのしみ会です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 5歳児は、毎月1回実施のクッキング保育で、パン、餃子、鳩の森まんじゅう、よもぎ団子、おはぎ、ピザ、デコレーションケーキ、うどん等を自分たちで作ったり、時には3、4歳児も一緒にお月見だんごを作ったりと、毎回楽しみにしています。 ・ 誕生会は、毎月まとめてお祝いをするのではなく、一人ひとりの誕生日にお祝いすることになっています。 ・ 献立は、同法人運営の3保育園合同給食会議で決定し、3園とも同じ日には同じ献立としています。 ・ 献立表は、毎日のメニューだけではなく、その日の食材やカロリー、旬の食材を使ったレシピを掲載するなどの工夫をして、毎月配布しています。献立の作り方を希望する父母には作り方を書いて渡しています。 ・ 献立表の他に給食便りを発行し、月毎のお知らせを掲載するとともに、「今、給食室から伝えたいこと」というコーナーで、はしの持ち方や食事のマナー等の情報も伝えています。 ・ 保育参加の父母は、子どもと一緒に昼食を食べることができますし、父母の会役員会では昼食を試食できます。 ・ 午睡時、保育士は、各保育室で子どもたちの様子を見ながら打ち合わせをしたり、連絡帳をつけたりしています。配慮の必要な子どもには特に気をつけて見守っています。 ・ 5歳児は、就学に向けて、秋の運動会が終わる時期からは午睡をしません。その時間帯に5歳児は、卒園記念制作に取り組んだり、他のクラスの職員と遊んだりするなど、さまざまなプログラムに取り組んでいます。 ・ 保育士は、2歳児について個人別排泄一覧表を作成し、排泄のリズムをつかんで対応するとともに、他の保育士もその情報を共有して対応するようにしています。
<p>- 2 健康管理・衛生管理・安全管理 [健康管理]</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 健康管理に関するマニュアルがあります。一人ひとりの健康については、既往症やアレルギー状況等を含め、個人別に記録されています。 ・ その日の園での様子は、1歳から3歳までは連絡帳に健康状態を記載した紙を貼り、4、5歳児は降園時に父母に口頭で伝えています。 ・ 歯磨きは、2、3歳児は保育者が仕上げ磨きをし、4、5歳児は子どもに任せています。5歳児には歯科医による歯磨き指導があります。 ・ 感染症等対応マニュアルがあり、職員に配布されています。 ・ 感染症が発生した時は、外の掲示板にすみやかに掲示しています。 ・ 感染症に関する研修は全職員が受け、理解しています。 ・ 健診は嘱託医によって行われています。結果は父母に伝えられ、かかりつけ医との連携が取れるように配慮されています。
<p>- 2 健康管理・衛生管理・安全管理 [衛生管理]</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 衛生管理マニュアルがあり、マニュアルに沿って当番表を作成し、清掃に取り組んでいます。 ・ マニュアルは年度末に内容の見直しをしています。 ・ 1歳児クラスを中心に、遊具は毎日消毒しています。




<p>- 2 健康管理・衛生管理・安全管理 [安全管理]</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・安全点検表があり、毎朝、チェック表にもとづき園庭や遊具の安全点検をしています。 ・防災に関するマニュアルがあります。毎月避難訓練を行い、119番通報訓練も取り入れています。 ・子どものけがに関しては、父母に連絡を取り、受診しています。 ・どんな小さなケガでも、報告書にして職員全員に周知し、再発防止に努めています。 ・今まで不審者の侵入はありません。事務所を園庭の門の近くに建て、門から入る来訪者をいち早く知る事が出来るようにしています。 ・救命救急法の研修は現在一部の職員が受けており、今後は全職員が受ける予定になっています。
<p>- 3 人権の尊重</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・人権についての学習を年度初めに行っています。 ・保育士は、せかしたり、強制することなく子どもに接しています。話す声は穏やかで、簡潔な表現を心がけながら、保育士は子どもたちへよく話しかけています。 ・虐待の早期発見についてのマニュアルがあり、保育士は視診で毎日確認しています。 ・男性保育士が4名おり、日々接していることで、子どもも職員も性差により仕事に違いがないことを実感しています。 ・職員は、子どもたちを「ちゃん」「くん」と呼んでいます。また子どもたちも、職員に対して「園長先生、先生」という敬称は使用せず、「ちゃん」「くん」等と呼んでいます。大人も子どもも、一人の人間として対等の立場であるという園の方針です。 ・保育室には、衝立や棚の下など、人の目を気にしないで過ごせるお気に入りの場所があります。保育士は、子どもから目を離すことなく、子どもの行動を見守るよう心がけています。 ・個人情報保護についての学習は、弁護士から話を聞き、職員は個人情報の取り扱いについて理解しています。 ・守秘義務についての宣誓書は、初任時に園に提出しています。
<p>- 4 保護者との交流・連携</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・保育園の民間移管後、園として新しく始める取り組み等について、三者協議会（父母の会・横浜市・法人）に出席する父母の会代表を通して一つひとつアンケートを実施し、父母の了解を得ながら進めました。 ・保育の基本理念と保育目標については、園だより、入園のしおり、ホームページでも説明しています。 ・個別面談や父母懇談会を実施し、父母に保育参加を勧めています。保育参加は、父母が参加したいときにいつでも参加でき、園内での子どもの様子に触れることができると喜ばれています。 ・父母の相談にはできるだけ応じ、記録を個人別ファイルに綴じこんで、施錠できる書庫に保管しています。 ・園内での子どもの様子は、園だより、給食だより、ほけんだより等で紹介するとともに、掲示板でも紹介しています。また、子どもの個人アルバムを作成し、進級時や卒園時に渡しています。

	<ul style="list-style-type: none">・園だよりには、「絵本だいすきコーナー」「月ごとの歌(譜面入り)」を、毎月掲載し、子どもたちが年齢ごとに園でどのような絵本を読み、どのような歌を歌っているかが分かるようにしています。・今年の5歳児クラスの「ぶどう組の歌」が完成し、子どもも父母もいっしょに練習しています。歌詞は、保育園の職員集団が作詞しました。育つ子どもの様子と、きずなと夢を持ってほしいという願いを込めています。園だよりには、参加した父母からの親子合唱の喜びの音が掲載されています。・父母の会があり、役員会には園長が出席しています。
--	--




評価領域 地域支援機能

評価分類	評価の理由(コメント)
<p>- 1 地域のニーズに応じた子育て支援サービスの提供</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一時保育、交流保育、園庭開放、親子通園、地域子育て支援（あそぼう会）等の取り組みを実施しています。またこれらは、外の掲示板や区役所の広報紙等で知らせています。 ・ 親子通園では、地域の親子や障がいのある子どもとその父母が、半日保育園で過ごし、給食を食べて帰るといった保育園体験を実施しています。 ・ 地域の親子に向けて、「あそぼう会」を毎月2回実施しています。担当は主任と保育士の2名で、運動、散歩、遊び等の取り組みを通して親子を支援しています。毎回十数組の親子が参加しています。実施の場所は、園庭、近くの公園などです。 ・ 園は、民間移管後2年目で、地域住民との交流は不十分です。地域からの園に対する要望を把握するための具体策を講じることが望まれます。
<p>- 2 保育園の専門性を活かした相談機能</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域住民への情報提供は、掲示板や区の広報、自治会役員を通して行っています。育児相談は、随時受け入れています。 ・ 子どもの発育や障がい、虐待等については、療育センターや区役所福祉保健センターと連携して取り組む体制があります。




評価領域 開かれた運営

評価分類	評価の理由(コメント)
<p>- 1 保育園の地域開放・地域コミュニティへの働きかけ</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもたちは散歩の際に地域の人々と気軽に挨拶を交わしています。地域の人も子どもたちを見つけると笑顔で寄ってくる等子どもたちと交流があります。 ・ 地域の人達にも園庭を開放している他、学習会の際には、保育室を教室として利用してもらっています。 ・ 毎月実施している園児のおたのしみ会の日には、地域の障がい児の育児サークルも参加して、一緒に楽しんでいます。 ・ 5歳児は、市立認可保育園(2園)と年1回ドッジボール大会を行ったり、近隣の小学校の1年生のクラスに入ってお正月遊びを一緒に楽しむ機会を持ったりしています。 ・ 近くの地域ケアプラザの高齢者を訪問し、歌のプレゼントをしたり、焼き芋パーティーのお芋を届けたりして交流しています。 ・ 保育園が法人の運営になってからまだ日が浅いため、子どもたちは地域の行事や活動等へは参加しておらず、これからの課題だと園も認識しています。
<p>- 2 サービス内容等に関する情報提供</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ パンフレットや区広報紙、ホームページで情報を提供しています。 ・ NHK テレビの取材を受け、番組で紹介されたり、雑誌の取材を受ける等、情報の提供には積極的に応じています。 ・ 見学希望者が多く、一時保育や入園の希望者、大学のゼミ生、取材等の見学も受け入れています。
<p>- 3 ボランティア・実習の受け入れ</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ボランティア受け入れマニュアルがあります。受け入れは主任が担当しています。活動後、ボランティアに感想文を提出してもらっています。 ・ 実習生受け入れマニュアルに沿って、年間を通し多くの実習生を受け入れています。実習生の受け入れにあたっては、実習が実りの多いものとなるように、保育士リーダー会で話し合っています。実習の最後の反省会では、リーダーは、あらかじめクラスの担当者からも感想等を聞いてきて、実習生に伝えたり、実習生の感想や反省を聞いて毎日の保育の参考にする等、効果的な実習を心がけています。 ・ 実習後、ボランティアとして再来園する学生が何人もいます。

評価領域 人材育成・援助技術の向上

評価分類	評価の理由(コメント)
<p>- 1 職員の人材育成</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自己評価票による目標設定、園内外での研修、OJT などによる人材育成の計画があります。 ・ 理事長・園長が年2回、職員と面接を行い、各自の目標設定およびその結果を話し合っています。 ・ 同法人が運営する他の2保育園の職員も含めた合同研修が定期的に行われ、非常勤職員も参加しています。 ・ 外部の研修会等へも積極的に参加しています。 ・ 和太鼓・荒馬踊り・合唱の講習や、ぞう列車国際交流コンサート、法人3園合同研修の沖縄平和学習の旅等にも参加しています。 ・ 研修結果は報告書により職員全員が共有できるように工夫しています。また、研修等を受けた感想や日常の保育にどう活かすか等について、各職員の報告をまとめ、報告書として父母へ配布しています。
<p>- 2 職員の技術の向上</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 職員会議や職員の学習会等で、保育技術について話し合い、質の向上を図っています。 ・ 同法人内の他の2保育園とのクラス担任交流を行い、相互の良い所を取り入れるよう図っています。 ・ 臨床心理士が月3回来園し、子どもたちとともに過ごした後、特に配慮を必要とする子どもへの接し方や課題について、保育士に助言・指導を行っています。 ・ 1・2年、3-6年、7年以上という経験年数に応じて、テーマを定め、外部講師を招いて研修を行っています。
<p>- 3 職員のモチベーション維持</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自己評価票に経験年数に応じた期待水準が明記されています。 ・ 日常的に、理事長・園長・主任は職員と良好なコミュニケーションをとるようにし、提案や意見を出しやすくしています。 ・ 各人の目標とその結果について、年2回、理事長・園長と面談しています。

評価領域 経営管理

評価分類	評価の理由(コメント)
<p>- 1 経営における社会的責任</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業者として守るべき法・規範・倫理等を、年度初めの法人全体職員会議で説明し、周知しています。 ・ ゴミの分別、不要な電気を消す等、環境に配慮しています。 ・ 有機栽培等の米や野菜をできる限り使用し、食品の安全性に配慮するとともに、環境への負荷の低減に寄与しています。 ・ 法人内の3保育園で、同じ日に同じ献立とすることにより、食材廃棄物の削減を図っています。 ・ 環境配慮の考え方を、園の方針や目標の中に位置づけるには至っていません。
<p>- 2 施設長のリーダーシップ・主任の役割等</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 法人全体の職員会議で、各クラスからの事例報告をもとに、理念の確認をしています。 ・ 年2回の理事長・園長と各職員の面談の中で、理念を確認しあっています。 ・ 民間移管にあたり、方針や保育の目標等を説明し、それに対する父母の意見を、三者協議会（父母の会、横浜市、法人）に出席する父母の会代表を通じて集約しました。移管後も、新たな方法を取り入れる場合や変更をする場合には、その都度父母の会代表を通じて説明・父母の意見集約を行っています。 ・ 外部の主任保育士研修を受けさせる等、主任クラスの職員を計画的に育成する仕組みがあります。 ・ 主任は園外でも職員と交流を図るなど、コミュニケーションが円滑になるよう努めています。
<p>- 3 効率的な運営</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 法人として5年の中期計画を定めています。 ・ 3園園長会議、3園園長主任保育士会議を定期的に関き、情報の共有、重点改善課題の設定を行っています。 ・ 今後に向けて、園舎を増改築する計画があり、職員の希望等をまとめ、設計に反映させる予定です。 ・ 理事会メンバーに外部の学識経験者、連合町内会会長、区社協会長、公認会計士等があり、運営に関する意見交換をしています。

利用者家族アンケート 分析

- 1、実施期間 2006年10月10日～10月31日
- 2、実施方法 全園児の保護者に対して事業者側から手渡し
各保護者より、同封の返送用封筒にて評価機関宛匿名で返送
- 3、回収率 57.7% (71枚配付、41枚回収)
- 4、所属クラス 0歳児...0人、1歳児...1人、2歳児...7人、3歳児...6人、4歳児...13人、5歳児...13人
ただし同一家族で複数名が園に在籍の場合には、下の児童のクラスについて回答。

設問ごとの概要

- 【問1】**保育目標や保育方針**は、「よく知っている」「まあ知っている」という回答が85.4%で、そのうち97.1%が「共感できる」「ほぼ共感できる」と答えています。
- 【問2】**入園時の対応**については、「見学の受け入れ」について「その他」という回答が29.3%、「入園時の面接」についても「その他」が26.8%という結果です。これは「その他」に“市立の時は面接や見学はなかった”“兄弟が入園しているので見学はしなかった”などの回答が多く含まれるためです。
- 【問3】**年間計画**については、「年間の保育や行事についての説明」「保護者の要望が活かされているか」とも、ほぼ満足しています。自由意見欄に“年間のスケジュールが年度始めにもらえる”“次月の予定が早めに分かる”などの回答があり、保護者への配慮が見られます。
- 【問4】**日常の保育内容の遊び**については、「園外活動」「健康づくりへの取り組み」などに、全員が満足しています。
生活では、「給食」に対する満足度が高く、アレルギー食への取り組み、食材や食器に対する賛辞の声が多く見られます。「昼寝や休息」「体調への気配り」についてもほぼ満足しています。
- 【問5】**快適さや安全対策**については、「園舎、園庭などの施設」「外部からの不審者侵入に対する備え」について不満が多く、園舎の老朽化と防犯についての不安が自由記入欄にも多くみられます。園もこの点は認識しており、幼児トイレの改修など保育室の環境改善に取り組んだり、事務所を出入り口門近くの園庭に設置し、不審者の侵入対策をとるなどしています。
- 【問6】**園と保育者の連携・交流**については、「保護者懇談会や個別面談」「残業など迎えが遅くなる時の対応」についてほぼ満足しています。“毎日の様子を担任から直接確認できる”、“連絡ノートや写真によって園の生活が確認できる”などの記述があります。
- 【問7】**職員の対応**については、「子どもが大切にされているか」「子どもが保育園生活を楽しんでいるか」について満足度が高く、“保育士が生き生きとして子どもと楽しそうに接している”との記述が見られます。
- 【問8】**総合的な評価**は「満足」「ほぼ満足」を合わせると97.6%と高い結果です。
- 【問9】**自由記入欄**には、保育士が子どもにも保護者にも愛情を持って接しており、楽しい企画に一生懸命取り組む姿に対しての感謝の言葉があります。

満足度の高かった点

* 満足度・・・「満足」「どちらかといえば満足」を合わせた数値

- ◇ 保育内容のうち、遊びについての各項目の満足度が高く、満足度100%が「園の遊びについて」「自然に触れたり地域に関わるなどの園外活動」「遊びを通じた健康づくりの取り組み」、次いで「昼寝や休息が子どもの状況に応じて対応されている」が97.7%、「給食のメニュー」「体調への気配り」が97.6%、「園のおもちゃや教材について」「遊びを通じた友達との関わりや、保育士との関係」「給食を楽しんでいる」が95.1%です。
- ◇ 他の項目では、「保育園の生活を楽しんでいる」が97.6%、「保護者からの相談事への対応」が95.1%の満足度となっています。

満足度のやや低かった点

- ◇ とくに不満が目立ったのは、「外部からの不審者に対する備え」について「不満」「どちらかといえば不満」が65.8%、「園舎、園庭などの施設」についても「不満」「どちらかといえば不満」が51.2%です。

利用者家族アンケート集計結果

実施期間： 2006年 10月10日～10月31日

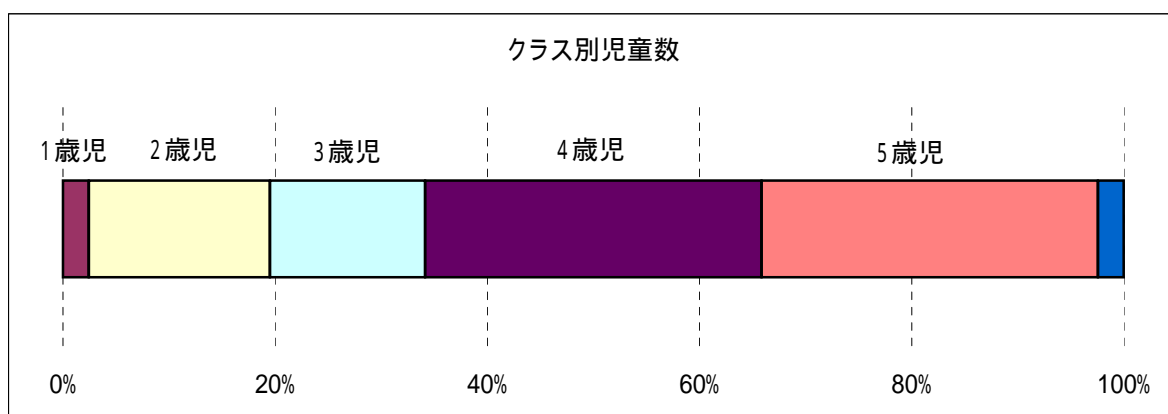
回収率： 57.7%（回収41枚 / 配付71枚）

【属性】

クラス別児童数

複数在籍の場合は、下の子どものクラスで記入

合計	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	無回答
41	0	1	7	6	13	13	1



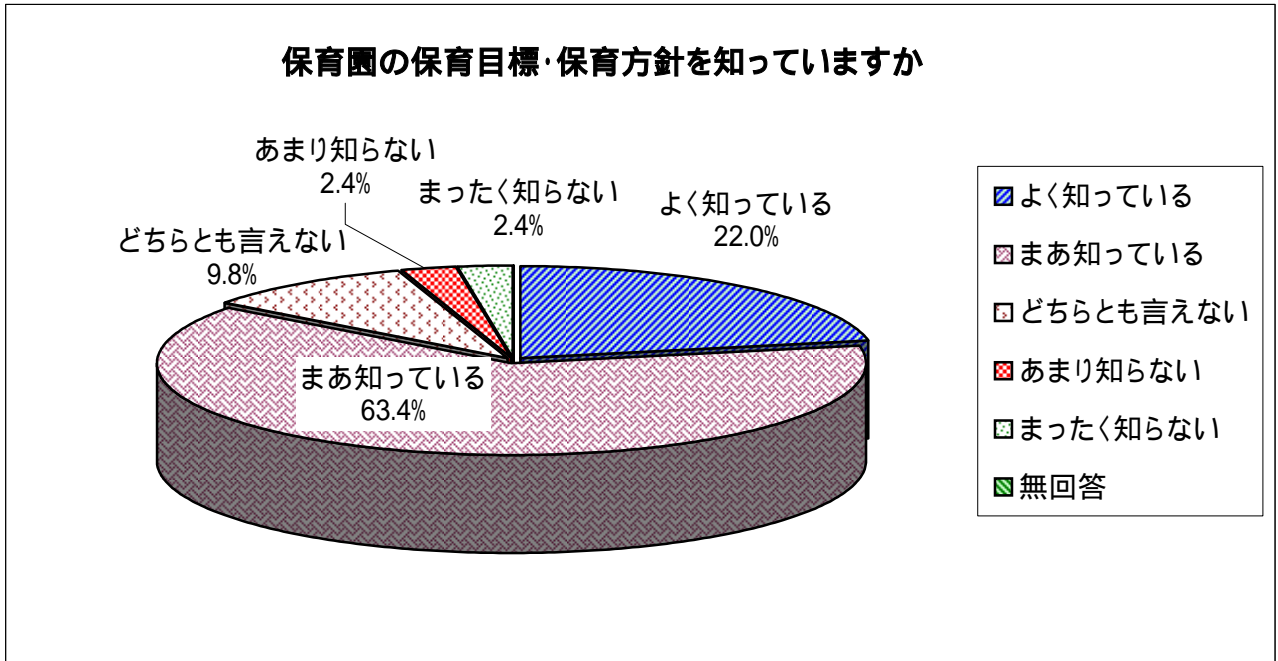
保育園の基本理念や基本方針について

問1: 保育園の保育目標や保育方針を知っていますか

(%)

問1:	よく知っている	まあ知っている	どちらとも言えない	あまり知らない	まったく知らない	無回答	計
あなたは、この園の保育目標・保育方針をご存じですか	22.0	63.4	9.8	2.4	2.4	0.0	100

(%は小数第1位まで表示し、合計の小数第1位を四捨五入すると100%になります。)

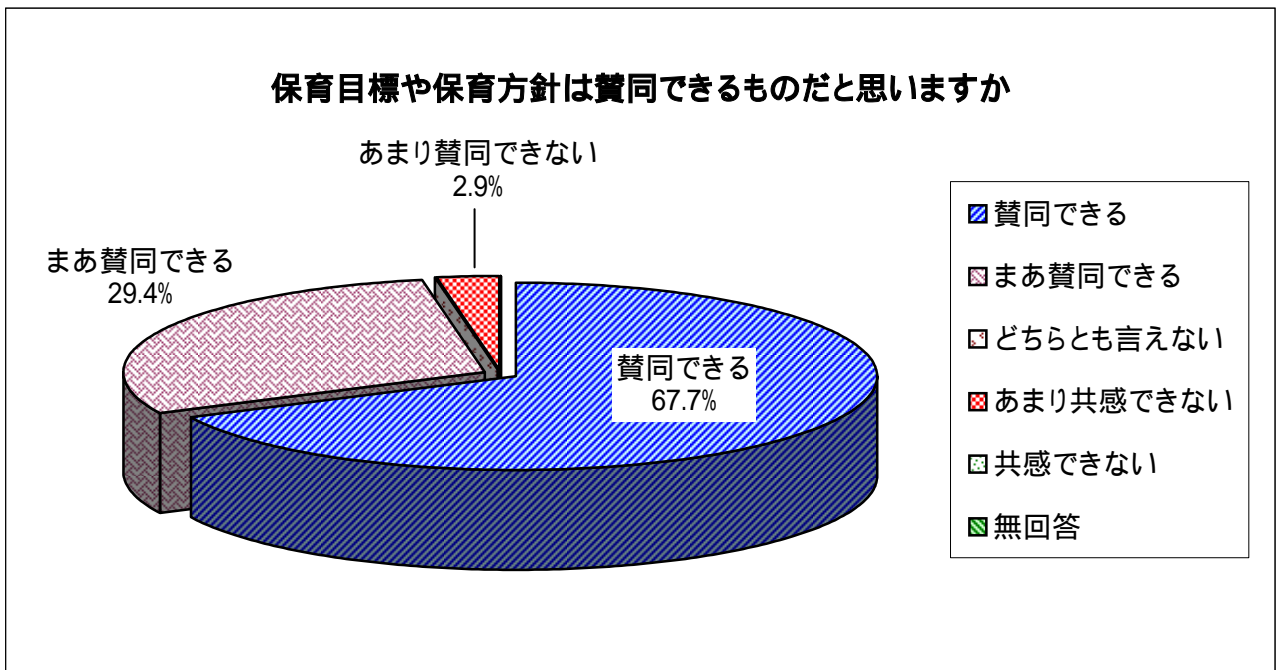


「よく知っている」「まあ知っている」と答えた方への付問

付問1: その保育目標や保育方針は賛同できるものだと思いますか

(%)

付問1:	賛同できる	まあ賛同できる	どちらとも言えない	あまり共感できない	共感できない	無回答	計
あなたは、その保育目標や保育方針は賛同できるものだと思いますか	67.7	29.4	0.0	2.9	0.0	0.0	100



保育園のサービス内容について

問2 入園時の状況について

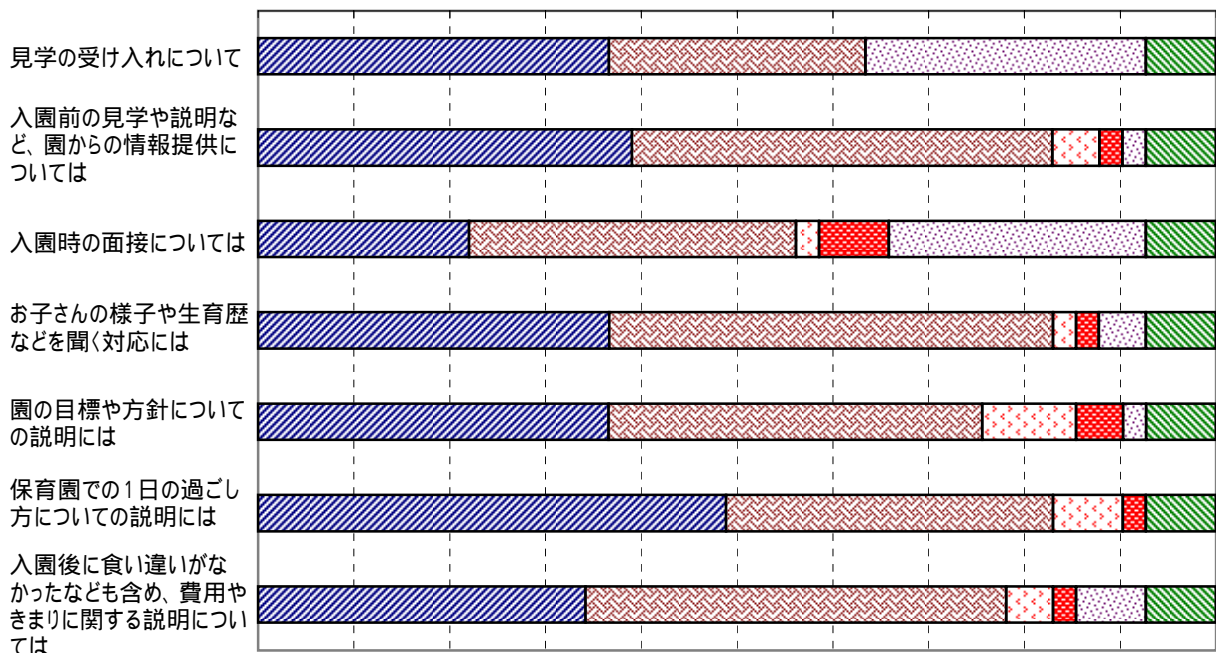
(%)

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
見学の受け入れについて	36.6	26.8	0.0	0.0	29.3	7.3	100
入園前の見学や説明など、園からの情報提供については	39.0	43.9	4.9	2.4	2.4	7.3	100
入園時の面接については	22.0	34.1	2.4	7.3	26.8	7.3	100
お子さんの様子や生育歴などを聞く対応には	36.6	46.3	2.4	2.4	4.9	7.3	100
園の目標や方針についての説明には	36.6	39.0	9.8	4.9	2.4	7.3	100
保育園での1日の過ごし方についての説明には	48.8	34.1	7.3	2.4	0.0	7.3	100
入園後に食い違いがなかったなども含め、費用やきまりに関する説明については	34.2	43.9	4.9	2.4	7.3	7.3	100

入園時の状況について

■満足 ■どちらかといえば満足 ■どちらかといえば不満 ■不満 ■その他 ■無回答

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



問3 年間の計画について

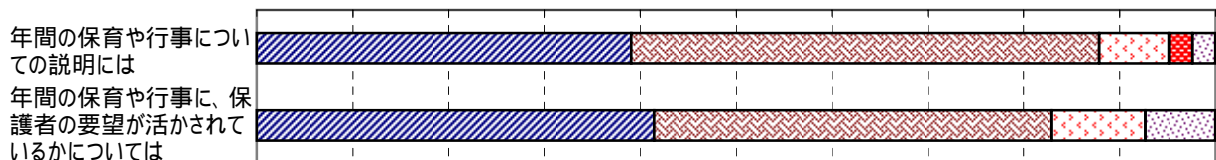
(%)

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
年間の保育や行事についての説明には	39.0	48.8	7.3	2.4	2.4	0.0	100
年間の保育や行事に、保護者の要望が活かされているかについては	41.5	41.5	9.8	0.0	7.3	0.0	100

年間の計画について

■満足 ■どちらかといえば満足 ■どちらかといえば不満 ■不満 ■その他 ■無回答

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%

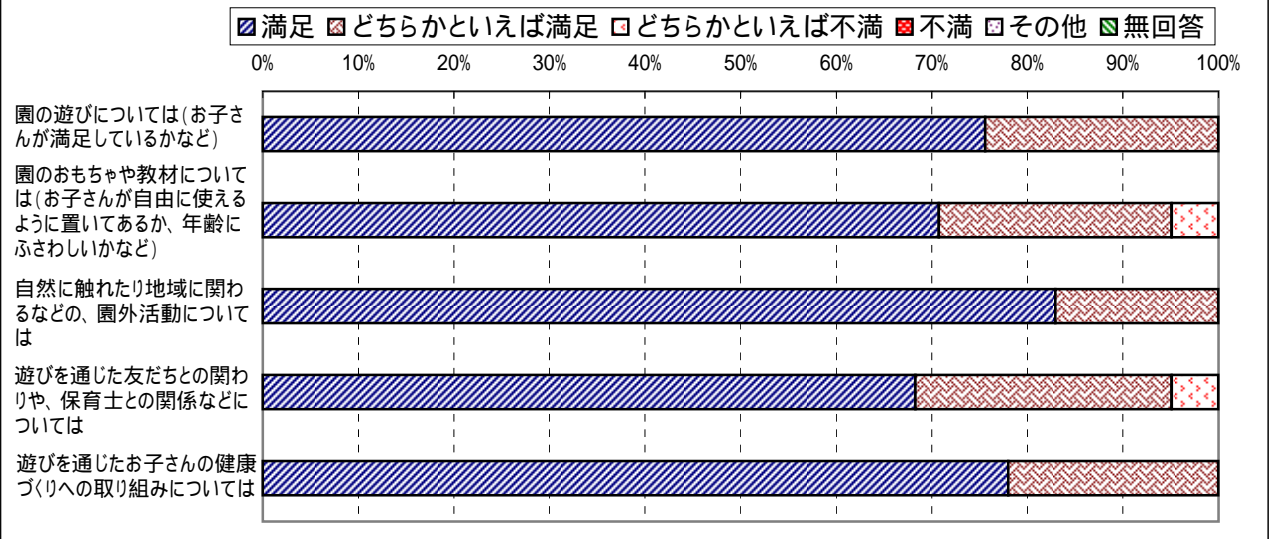


問4 日常の保育内容について

(%)

「遊び」について	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
園の遊びについては(お子さんが満足しているかなど)	75.6	24.4	0.0	0.0	0.0	0.0	100
園のおもちゃや教材については(お子さんが自由に使えるように置いてあるか、年齢にふさわしいかなど)	70.7	24.4	4.9	0.0	0.0	0.0	100
自然に触れたり地域に関わるなどの、園外活動については	82.9	17.1	0.0	0.0	0.0	0.0	100
遊びを通じた友だちとの関わりや、保育士との関係などについては	68.3	26.8	4.9	0.0	0.0	0.0	100
遊びを通じたお子さんの健康づくりへの取り組みについては	78.0	22.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100

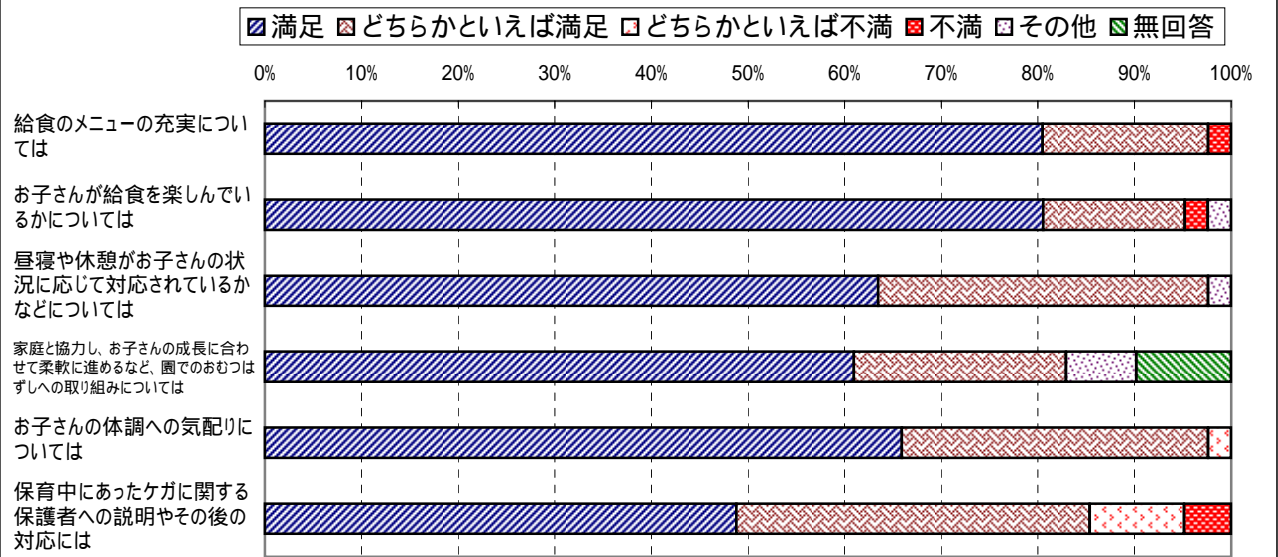
日常の保育内容「遊び」について



(%)

「生活」について	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
給食のメニューの充実については	80.5	17.1	0.0	2.4	0.0	0.0	100
お子さんが給食を楽しんでいるかについては	80.5	14.6	0.0	2.4	2.4	0.0	100
昼寝や休憩がお子さんの状況に応じて対応されているかなどについては	63.5	34.2	0.0	0.0	2.4	0.0	100
家庭と協力し、お子さんの成長に合わせて柔軟に進めるなど、園でのおむつはずしへの取り組みについては	61.0	22.0	0.0	0.0	7.3	9.8	100
お子さんの体調への気配りについては	65.9	31.7	2.4	0.0	0.0	0.0	100
保育中にあったケガに関する保護者への説明やその後の対応には	48.8	36.6	9.8	4.9	0.0	0.0	100

日常の保育内容「生活」について



問5 快適さや安全対策などについて

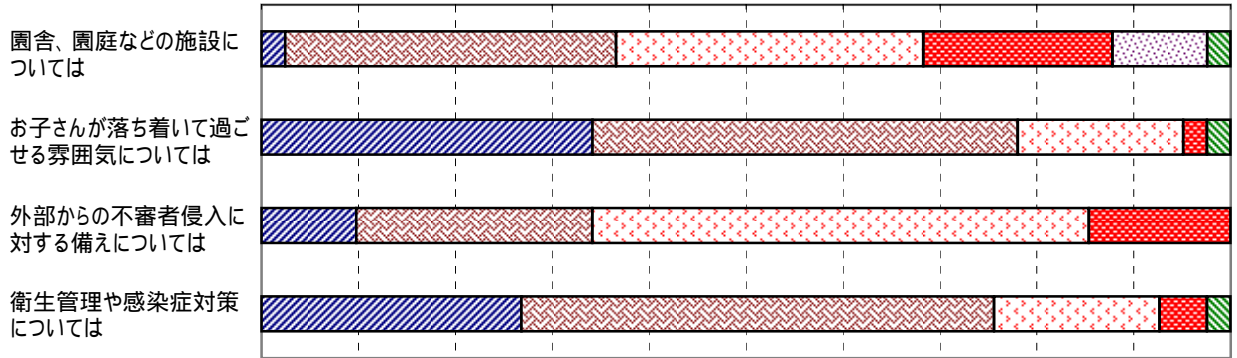
(%)

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
園舎、園庭などの施設については	2.4	34.2	31.7	19.5	9.8	2.4	100
お子さんが落ち着いて過ごせる雰囲気については	34.2	43.9	17.1	2.4	0.0	2.4	100
外部からの不審者侵入に対する備えについては	9.8	24.4	51.2	14.6	0.0	0.0	100
衛生管理や感染症対策については	26.8	48.8	17.1	4.9	0.0	2.4	100

快適さや安全対策などについて

■満足 ■どちらかといえば満足 □どちらかといえば不満 ■不満 □その他 ■無回答

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



問6 園と保護者との連携・交流について

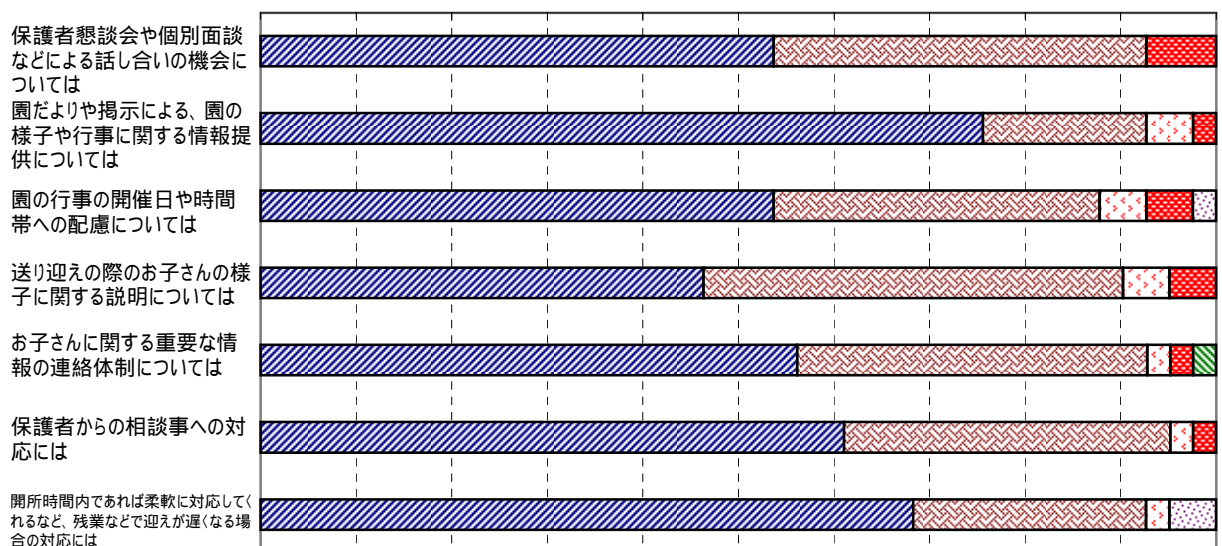
(%)

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
保護者懇談会や個別面談などによる話し合いの機会については	53.7	39.0	0.0	7.3	0.0	0.0	100
園だよりや掲示による、園の様子や行事に関する情報提供については	75.6	17.1	4.9	2.4	0.0	0.0	100
園の行事の開催日や時間帯への配慮については	53.7	34.1	4.9	4.9	2.4	0.0	100
送り迎えの際のお子さんの様子に関する説明については	46.3	43.9	4.9	4.9	0.0	0.0	100
お子さんに関する重要な情報の連絡体制については	56.1	36.6	2.4	2.4	0.0	2.4	100
保護者からの相談事への対応には	61.0	34.1	2.4	2.4	0.0	0.0	100
開所時間内であれば柔軟に対応してくれるなど、残業などで迎えが遅くなる場合の対応には	68.3	24.4	2.4	0.0	4.9	0.0	100

園と保護者との連携・交流について

■満足 ■どちらかといえば満足 □どちらかといえば不満 ■不満 □その他 ■無回答

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



問7 職員の対応について

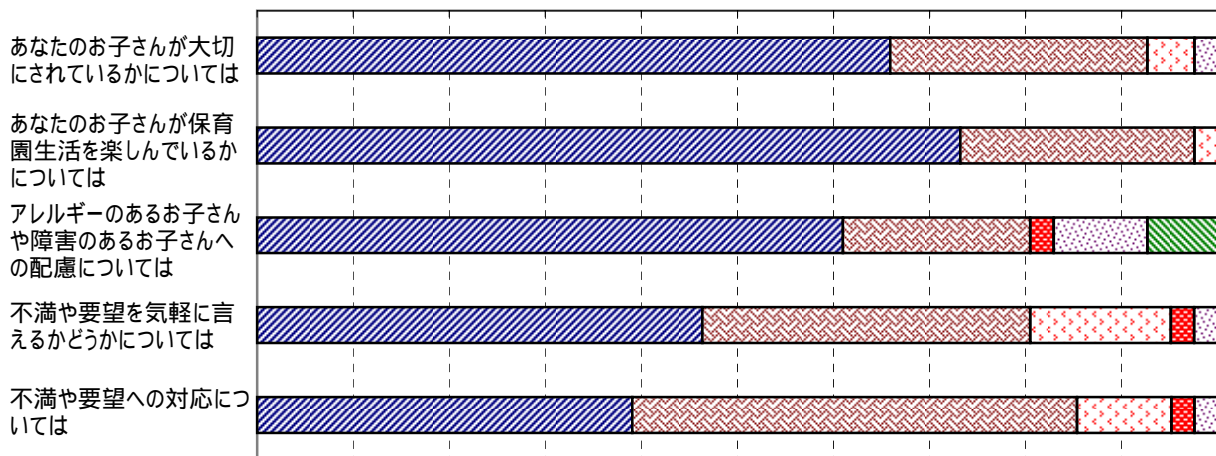
(%)

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
あなたのお子さんが大切にされているかについては	65.9	26.8	4.9	0.0	2.4	0.0	100
あなたのお子さんが保育園生活を楽しんでいるかについては	73.2	24.4	2.4	0.0	0.0	0.0	100
アレルギーのあるお子さんや障害のあるお子さんへの配慮については	61.0	19.5	0.0	2.4	9.8	7.3	100
不満や要望を気軽に言えるかどうかについては	46.3	34.2	14.6	2.4	2.4	0.0	100
不満や要望への対応については	39.0	46.3	9.8	2.4	2.4	0.0	100

職員の対応について

■満足 ■どちらかといえば満足 □どちらかといえば不満 ■不満 □その他 ■無回答

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%

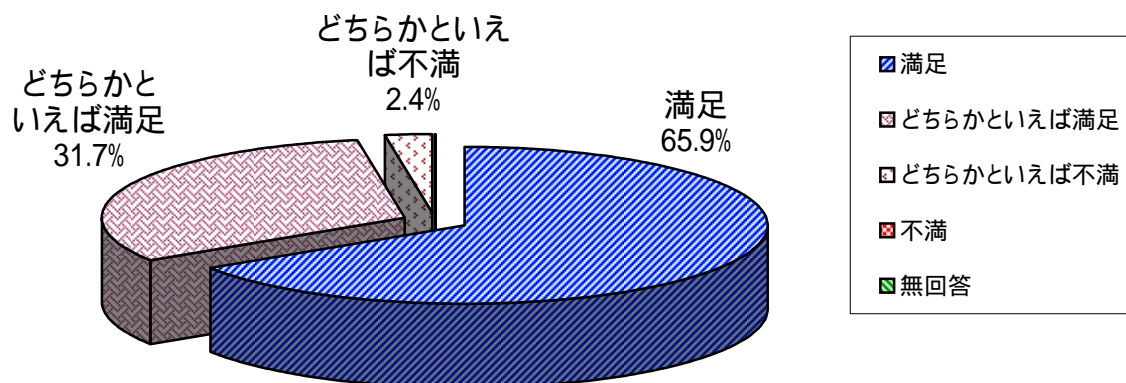


問8 保育園を総合的に評価すると

(%)

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	無回答	計
総合満足度は	65.9	31.7	2.4	0.0	0.0	100

総合満足度



利用者本人調査 分析

観察調査および聞き取り調査

12月 7日(木) 9:00~13:00 1、2、3、4、5 歳児クラス

12月 11日(月) 9:00~13:00 14:30~15:30 1、2、3、4、5 歳児クラス

(聞き取りは、5 歳児クラスの給食時および散歩時に実施)

1. 遊びについて

【12月7日】

自由遊びの後、園庭に出て皆でロックソーラン踊りをし、その後、足を洗って保育室へ入りました。3、4、5 歳児は、一緒に朝の歌をピアノに合わせて歌います。歌は、「どんぐりころころ」「あかおにとあおおにのタンゴ」「たき火」「手のひらを太陽に」「森は生きている」「ぞうれっしゃよはしれ」「ぶどう組みの歌」等。どの子どもも大きな口をあけて元気よく、そして感情を込めて歌うことができました。特にぶどう組の歌は、今年10月に完成したばかりの年長組の歌ですが、短期間でよく覚えて歌えました。年少児たちも真似をしながら一緒に歌っていました。その後、それぞれのクラスごとに近くの公園へ散歩に出かけました。

3 歳児は、公園で思い思いの遊具で遊んでいましたが、保育士の巧みな誘導で、しっぽ取りゲームを皆でやることになりました。2グループに分かれ、追いかけてしっぽを取ると勝ちとなる遊びで、何度も何度も繰り返して行いました。ゲームに入れない子には、保育士が声をかけ、一緒に走り、入りたくない子には無理強いせず、見守っていました。

4 歳児は、部屋でじゃんけん遊びをした後、「何して遊ぶ?」という保育士の声かけで市民の森に行くことになりました。目的地までの間に地域の人と気軽に挨拶を交わしています。森では、山姥が話題の中心で、保育士の話しかけでその世界にすっかり溶け込んで遊んでいました。また子どもたちは、ピニールで作った羽を背中に洗濯バサミで取り付け、走り回って遊びました。

5 歳児は、クリスマスに向けて「大きな靴下を絞り染めで作る」という目標を掲げ、皆で絞り染めについて話し合いをしました。その後、靴下に付けるボンボン飾りを毛糸で作りました。それから三ツ境公園に行って、どろぼう鬼ごっこやサッカーをしました。

【12月11日】

自由遊びの後、園庭にて皆でロックソーラン踊りをし、その後部屋へ戻り、全員で歌を歌いました。

1、2 歳児はござに座り、3、4、5 歳児は立って、「犬のおまわりさん」「北風小僧の寒太郎」「朝一番早いのは」「あわてんぼうのサンタクロース」「サンタが町にやってくる」等を元気よく歌いました。その後、各保育室に戻り、絵本を読んでもらったり、手遊びをしたりし、その後散歩に行きました。

1、2 歳児は、公園でローラー滑り台ですべったり、落ち葉のお風呂に入ったり、葉っぱのお化けごっこをしたりしました。落ち葉の中に隠された大きな蕪を見つけ出し、皆で引っ張って持ち帰りました。

3、4、5 歳児は、園の隣の公園でタッチリレーをしました。縦割りのグループ対抗リレーで、年長児がリーダーシップをとって優勝を目指しました。5 歳児は園に戻った後、昼食までの時間に絞り染めの続きをしました。

自由遊びは、ブロックの電車ごっこ、エプロンをつけてままごと遊び、人形おんぶ遊び、お絵かき、ずいずいずっこころばし等の好きな遊びをしていました。

2. 食事について

昼食は、どのクラスも各保育室で配膳しています。1 歳児は、保育士が食器に盛り付けます。子どもは3~4人のグループに分かれ、保育士も一緒にお話ししながら食べます。2 歳児も保育士が盛り付けをします。3、4 歳児は、お当番が配膳のお手伝いをします。5 歳児は、朝、当番は米をといいて炊飯器にかけ、ご飯を炊き、食事を盛り付け、配膳もします。4、5 歳児は、ランチョンマットを使用しています。

どの年齢のクラスでも子どもたちはよく食べています。残食は、ほとんどありません。1、2歳児の保育士は、時々そっと手伝いますが、できるだけ自分で食べるように見守っています。5歳児に聞くと、「給食は美味しい」「残さない」「嫌いなものでも食べる」「嫌いなものははじめから少なくしてもらおう」等と答えました。

子どもたちは、会話をしながら楽しそうに食事をしていますし、遅くなっても保育士から急がされることはありません。

3. 排泄について

2歳児に対しては、個人別の排泄一覧表を作成し、子どもの個人差を理解して対応しています。

年少児は、次のプログラムに入る前に保育士から「トイレに行こう」と誘われます。年長児は、外へ出かけるときには保育士からの声かけがありますが、他は自分の判断で行っています。

4. 清潔・健康について

戸外から保育室へ入る場合は、足を洗います。足を洗わない場合は、拭いてもらいます。午睡前にも足を拭いてもらいます。以前は子供たちに着替えるという習慣がなかったので、民間移管後に園の方針としてこの習慣を取り入れました。今では、自らすすんで足を洗うことや、外遊びから帰ってきたら着替えることが定着しました。

5. いやな思いへの対応や権利を守ることにについて

子どもを呼ぶときは、「ちゃん」「君」と呼びます。家で呼ばれている呼び方で呼びます。

子どもたちは、よくけんかをしました。保育士は、「どうしたの」「ちゃんは、どうして欲しかったの」等の言葉かけをして双方の言い分をよく聞きました。決して急がず、じっくりと対応しています。子どもたちは、自分の話をよく聞いてもらって落ち着きを取り戻し、遊びに戻って行きました。

6. 職員について

保育士は、子どもたちには穏やかで、分かり易い言葉で話しかけていました。

保育では、保育士同士が連携して巧みな導入を行い、子どもたちが興味を持つような話しかけをしています。たとえば、子どもたちは公園に潜む忍者や山姥等の話が大好きで、公園では夢中になって遊んでいました。大きな蕪が保育士の手によって公園の落ち葉の中に予め埋められていましたが、1歳児は、大きな蕪の絵本が大好きで、公園で大きな蕪を見つけて大喜びでした。

歌や荒馬踊り、ロックソーラン踊りなどでは保育士が先頭に立ち、元気一杯に表現しているので、子どもたちもその気になって元気に身体を動かしている様子が見られました。

まとめ

子どもたちは、どの子もよく歌います。歌うことが楽しくて仕方がないようです。毎朝、歌の時間には、プロのピアノの先生が弾く伴奏に合わせて、何曲も歌います。5歳児の歌を聴いて年少の子どもたちも真似をしながら、長い歌でも歌うことができます。散歩中も歌を歌っていました。

ロックソーラン踊りや太鼓にあわせた「エイヤー」「ソーレ」という掛け声は威勢がよく、音とぴったり合うと気持ちがいいと感じているようです。

民間移管後2年足らずですが、保育士同士の連携もよく、子どもたちは落ち着いて、伸び伸びと園生活を楽しんでいる様子が伺えます。

給食では、子どもたちは年齢に応じて配膳の手伝いをしています。特に5歳児の当番は、米とぎ、炊飯、ご飯・おかずの盛り付けから配膳まで、自信を持って行っています。

子どもが本来持っている力を十分に出すことができるよう、保育士の工夫ややる気が、子どもたちにも伝わっていることを実感できました。

事業者意見「第三者評価を受けて」

民間移管を受けてからもうすぐ2年が経とうとしています。どんな保育園になるのか...と、その間、心配や不安を抱えたお父さん、お母さんがたくさんいらしたのだらうと思います。

私たちがはじめに心がけたこと、それはとにかく楽しくて仕方のない毎日を創ることでした。子どもたちにとっても、私たち保育者にとっても、お父さん、お母さん、お家の方あなたにとっても。子どもたちが保育園に来ることを楽しみに楽しみにするような毎日を考えることが、私たちの保育力を作る原動力になっていました。昨日、朝、ぐずっていた子が今日は泣かないでお母さんとバイバイできた！ 今日走って保育園に来た！ 今日フェンスの向こうから「おはよー！」って言いながら飛び込んで来た！ そのどれもが嬉しくて、今日も瀬谷保育園で子どもたち、お父さん、お母さんとの毎日に心躍らせています。

この度、第三者評価を受けて、子どもたちのいのちを守り育てる私たちに、今、求められていることを真摯に受け止め、より良い保育を創っていきたいと思います。

(主任保育士 近江屋 希)

“共育て共育ちを大切に、子どもたちひとりひとりが、かけがえのない存在として成長していくことを保障する”という同じ決意を持って日々の保育に励んでいても、職員集団というものは一人ひとりがそれぞれの考えを持ち、思いを抱えている。一つのことに対して、いろいろな角度からの見方がある。それは当たり前なことであるし、よいことでもある。しかし、この鳩の森愛の詩瀬谷保育園という、お父さん・お母さんと子どもたち、そして私たち職員が共に育て共に育ち合っていく場で、あいまいなことがあってはならない。私たちの保育の真ん中にあることだけは、ゆるぎない、しっかりとした共通の理解の中になくてはならない。そのことを今回、第三者評価を受けたことで改めて胸に刻み込めた。そしてそのことを、職員全員でしっかり確認できたことは、明日からの保育への力となった。

当たり前のようにやってくる毎日の中で、私たちの保育も当たり前ようになってしまいがちだ。しかし、その中でも子どもたちはいろいろなことを感じ、思い、生きている。どんどん大きく成長している。その止まらない時間を私たちは一瞬だって無駄にしてはいけない。その時その時に私たちが発する言葉、見せる行動は、“何を伝えるためにそうするのか”という考えがあつてのものでなくてはならない。ひとつひとつの項目を見ながら、自分とじっくり向き合うことができたことで、そのことに気づくことができた。

共に励んでいる仲間たちと向き合うこと、そして、自分自身と向き合うことは、こんなにも大切なことだった。よいことはさらに深め、改善すべきことはそこから学び、次に生かしていく私たちでありたい。

(1歳児担任 宮本 ちひろ)

2年目の私の第三者評価を受けるにあたっての印象は、保育園のことを隅から隅まですべてわかってなければいけないという大きなものでした。まずは自己評価をし、やはりわからないこともたくさんあり、行き先が不安でした。しかし、職員同士で話し合い、意見を出し合ううちに楽しくなってきました。今思うと、全職員がそろって、あれだけの時間話し合ったことは初めてだと思います。自分が知らなかった保育園のいろんなことがわかり、例えば、「このことは、これにも、これにも、あれにもつながっている！」と発見して、日々の保育がますます楽しくなったように思います。保育には「なぜ？」ということが大切です。なぜ、それが大切なのか...。なぜそれが必要なのか...。今まで以上にそのことを考えさせられ、考える幅が広がりました。

私たちが自信をもってやってきたことが評価につながったことはうれしかったです。保護者からの評価を見ても、子どもを中心に保育者と保護者が手をつなぐことができていることを実感できました。しかし、弱みというのは、自分たちでは見つけにくいものだと思います。やはり、第三者の目から見てもらった評価は私たちだけでは気付くことができなかつたものがありました。また、普段聞くことのできない父母の真意に触れることができたことも大きかったと思います。進もうとしていた道に、新たな道を作っていただいたような気がします。この貴重な経験を無駄にせず、職員、父母、子どもたちはもちろん、保育園を支えてくださるまわりの方々を含め、みんなでより良い道に進んで行きたいと思います。

(2歳児担任 中谷 百合)

自己評価を全職員が話し合い、確認しあう過程は大変なものでしたが、私たちが保育の中で、日々努めていることが再確認できました。また、その成果を文章化していくことが、今後必要だということも解りました。担当者が保育園にきてくださり、私たちが大切にしているお散歩保育にも、寒いなかでしたが同行していただきました。遊びの発展に共感していただき、子どもたちも楽しい時間を過ごすことが出来ました。

担当者との面談では、「評価」という言葉に緊張してしまい、私たちの思いが伝わったかどうか不安でしたが、評価内容を見ると、私たちが意識し、取り組んでいる保育が評価されており、うれしく思いました。

保護者からの、意見、要望の中に、「不審者対応への不安」が取り上げられていました。民間移管後、2年目という期間の中では、園全体が見えるところへの事務所の設置や、防犯ライトの設置など、私たちの意見も取り入れてもらいながら進めてきました。しかし、この社会問題にもなっている不審者に対しては、私たちも不安ですし、安全対策にはよりいっそう意識していきたいと思ひます。

これからも、子どもを真ん中に、大人も一緒に、命の尊さ、平和への思いを大切にしながら、保育に励んでいきたいと思ひます。ありがとうございました。

(4歳児担任 山田 あき)

「なぜ3歳児クラスは忍者ごっこをするの?」「どうして荒馬おどりを踊るの?」...

「なぜ?」「どうして?」ということそのままだにしないこと。みんなで話し合いを繰り返しながら自分たちが行っている保育を見つめ直した。保育計画はもちろん発達に沿ったものになっている。でもそこでなぜこの活動をするのか?ということ子どもたちの姿を通しもっともって考えていくこと。みんなで話し合ってみんなのものにしていくことが豊かな保育につながっていくと思ひた。それは簡単なものでなくて、一人ひとりの努力が大切。しかしみんなで話し合いつくり合つたことの前には、子どもたちの笑顔や喜ぶ姿があることをみんな知っているし、私たちのエネルギーになっていることをとても実感している。

公立園の民間移管からもうすぐ2年。本当に父母に暖かく支えられた2年。今回学習したことをしっかりと胸に置き、職員が話し合い深めていきたい。そして子どもたちを真ん中にした毎日を、父母としっかりと結びつき、みんなでつくっていきたく思ひた。

(5歳児担任 林 望)

(第三者評価へ向けた話し合いの中で)

- ・ 日常の保育の中で行っている事柄の一つひとつについて「これは、この項目にあてはまるね」と皆で確認していくことで、その意味をより良く理解することができた。
- ・ 話し合いをすることで、未だ問題化していない点、今のところはうまくいっている点を含めたたくさんの方に目を向けられたことは良かった。また、それを職員全員で車座になって話し合えたことが良かった。

(評価の結果を受けて)

- ・ B の評価をもらったところに気づきがあった。環境意識や不審者対策など、社会や利用者が今保育園に求めていることがわかった。
- ・ 保育への利用者満足度が高かったことはとてもうれしかった。民営化開始から色々な事を経てこの評価を得るまで、子どもたちや保護者との間に信頼を築いてきた先輩方はすごい!と思った。

(新人職員 新井 理恵)

第三者評価を受けてみて、今までわかったつもりでいたことや曖昧だったことが整理され、園のことをより深く理解するきっかけとなりました。どうして荒馬を踊るの? どうして食器は木の器を使うの? “こうかな”と思うところはあれど、鳩の森を知らない第三者に丁寧に真っ直ぐに伝えるにはどうしたらいいかと思うと、改めて言葉や文章にする難しさを感じました。

また、3回の会議を通して、パート職員も正規の職員も一緒になって園のことを考える大切さも感じました。子どもの前に立てばパートも正規も関係ありません。お母さんだからこそ、短時間だからこそ気づくことがあると思います。それぞれのよさを生かしながら、いろんな人のいろんな目で子どもたちや保育園を育んでいきたいです。

最後に、今回いただいた評価でもう一度園のことを見直し、常に新しい気持ちをもって更なる発展を目指していきたいと思います。

(フリー保育士 阿部 千里)

時間をかけて一つひとつの領域について会議を重ね、話し合うことにより今まで見えていなかった現状を再確認し、日々の保育生活を職員全員とじっくりみつめ、振り返ることができました。職員一人ひとりが認識することにより、モチベーションの向上、職員同士の信頼関係の一層の深まりを実感しています。

私たちの目では見えなかったことを第三者の目で見ただき、質の向上に向け職員一人ひとりが教養を深め、今後の保育に力を入れていきたいと思っています。また、保育理念、保育目標、保育に対する熱意、子どもたちの過ごしやすい環境など、保育園が大切にしていることを評価していただいたことは、これからの私たちの大きな自信となり原動力になると思います。

子どもたちはとても素敵な笑顔を私たちに見せてくれます。そんな子どもたちを中心とした環境の中で、たくさんを経験から学び、子どもたちが毎日笑顔で登園し、安心した保育園生活を送れる保育園をさらに目指したいと思っています。そして、私たちも素敵な笑顔でおもいきり保育を楽しみたいと思っています。

(給食室 茅根 直子)